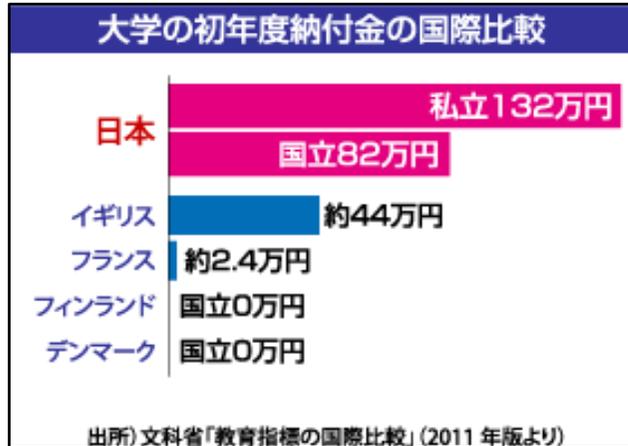
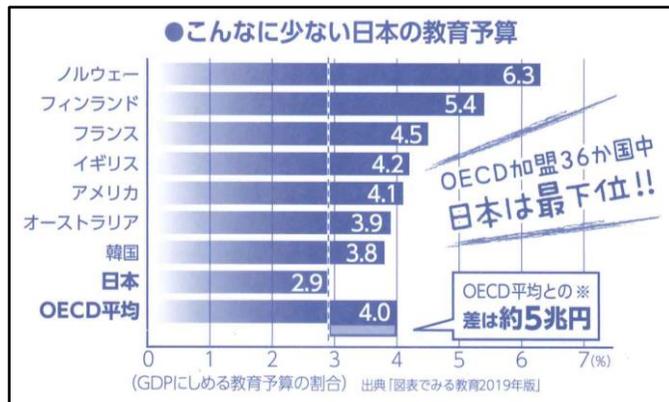


資料集

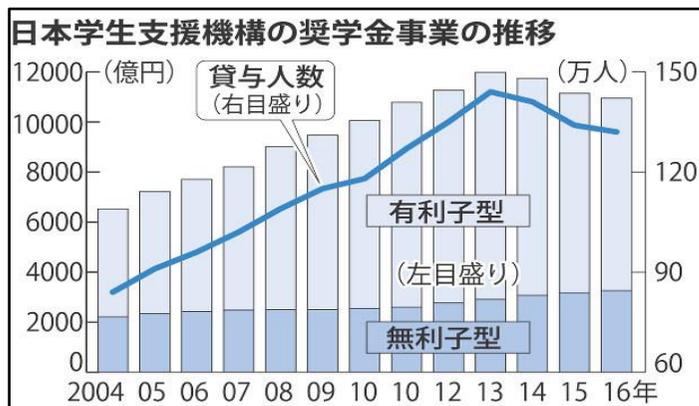
資料① 世界では進学するのに学費がいらぬ



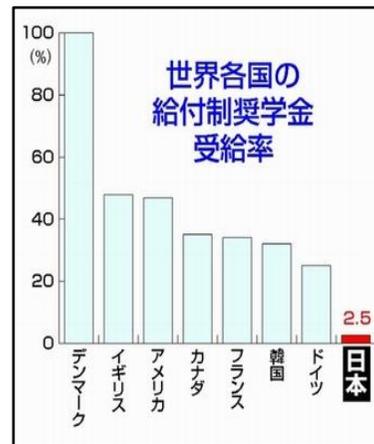
資料② 日本の教育予算は先進国の中で最低水準



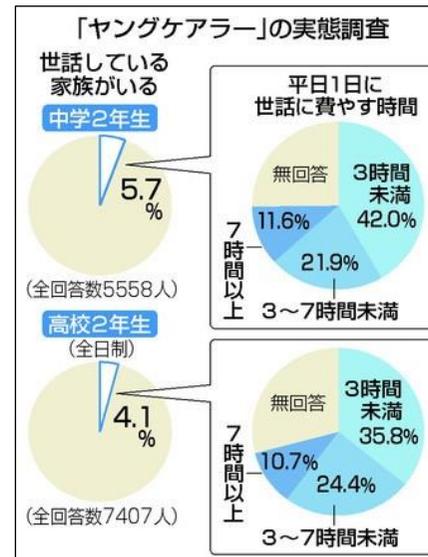
資料③ 無利子奨学金と有利子奨学金の割合



資料④ 世界では給付制奨学金(返さなくていい)が当たり前



資料⑤ ヤングケアラーはどのくらいいるのか

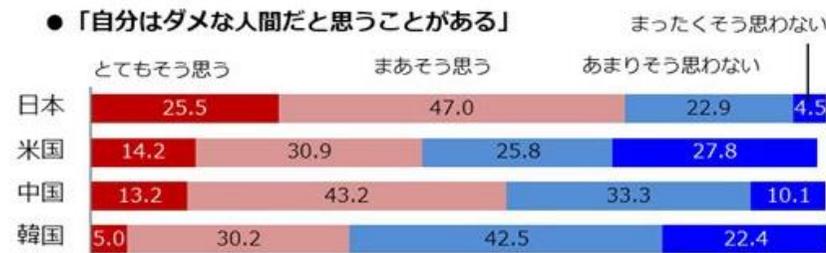


資料⑥ 国連は日本の教育をどう見ているの?

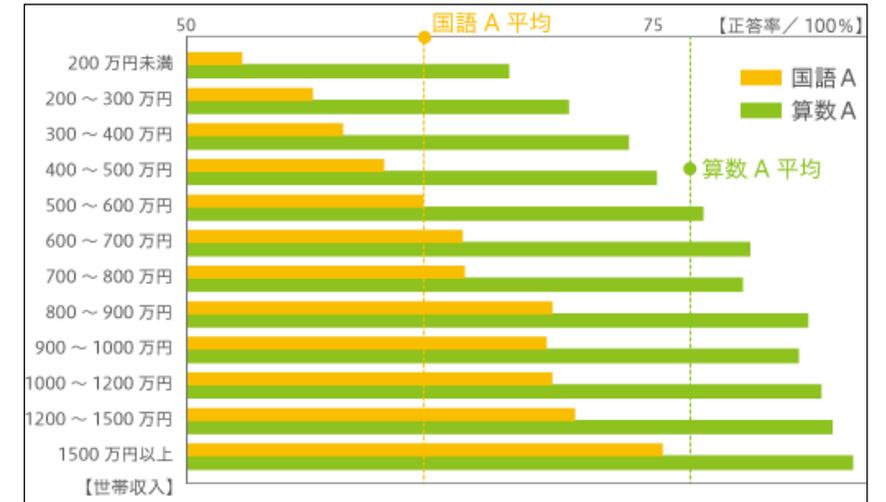
国連子どもの権利委員会からの日本政府への勧告(要約)

日本の過度に競争的な教育制度が、児童の心身の健全な発達に悪影響をもたらし、児童の可能性の最大限な発達を妨げている。いじめ、精神障害、不登校、中退、自殺の原因となっている。驚くべき数の子どもが幸福度の低さを訴えている。

資料⑦ 極端に低い日本の子どもの自己肯定感



資料⑧ 家庭の所得と比例する「学力」



資料⑨ 三浦朱門氏の発言

元教育課程審議会会長・三浦朱門

「逆に平均学力が下がらないようでは、これからの日本はどうにもならないということです。つまり、できんものはできんままで結構。戦後五十年、落ちこぼれの底辺をあげることにばかり注いできた労力を、できるものを限りなく伸ばすことに振り向ける。百人に一人でもいい、やがて彼らが国を引っ張っていきます。限りなくできない非才、無才には、せめて実直な精神だけを養っておいてもらえばいいんです。(中略)

国際比較をすれば、アメリカやヨーロッパの点数は低いけれど、すごいリーダーも出てくる。日本もそういう先進国型になっていかなければいけません。それが“ゆとり教育”の本当の目的。エリート教育とはいにくい時代だから、回りくどく言っただけの話だ」

斎藤貴男『機会不平等』文藝春秋

